

来週の「売り物」記事はこれ



2011年3月4日号 毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

ロングインタビュー「時代を駆ける」

全盲の校長、吉松政春さん

8日から2週・10回



全国でも数少ない全盲の校長として活躍する福岡県立北九州視覚特別支援学校校長、吉松政春（よしまつ・まさはる）さん（56）＝写真＝が登場します。

高校2年の時に網膜剥離で視野が狭くなり、後に失明。光を失った失意の日々を乗り越えて、前向きに生きてきた人生を語ってもらいます。

企画 第2部「働乱の時代に」

13日から

昨年末からスタートした大型企画「働乱の時代に」の第2部が13日朝刊から始まります。1部では日本の戦後経済を支えてきたものづくりの現場からルポしましたが、2部ではさまざまな現場で働く人たちに及んでいるしわ寄せ、痛みについて、現状や背景を報告します。編集局各部門から集まった担当記者7人が全国を飛び回り、あまり知られてこなかった事実を発掘します。計7回の予定です。ご期待ください。



あなたの処方箋 蓄のう症 くらしナビA面 7～11日



ねばねばした鼻水や鼻づまりに悩まされる蓄のう症。1カ月以内に症状が収まればよいですが、繰り返すと慢性の蓄のう症に移行します。花粉などのアレルギー性鼻炎と合併して発症する人も増えているこの病、原因や最新の治療法に迫ります。

「戦禍を生きる 空襲下の女性たち」 ①②③

くらしナビA面 7～9日

66年前、度重なる空襲で東京は戦場と化していました。焼夷弾が降り注ぎ住民が逃げ惑う中、けが人治療に、炊き出しに、懸命に立ち働いた若い女性たちがいることはあまり知られていません。元看護師や電話局の通信員に極限の日々を語ってもらいました。



空襲・焼夷弾を落すB29



うまみの凝縮した納豆をご飯にのせるだけではなく、手を加えて一品料理にしてみませんか。チーズやマヨネーズ、卵と組み合わせるとにおいが消え、苦手な人も食べられます。朝食にも酒のつまみにもなるレシピをお教えします。

ザ・特集 芥川賞作家 西村賢太さん 3時間ほろ酔い激白**私の「野垂れ死に」宣言 10日掲載**

今期の芥川賞はこれまでになく、社会的な「事件」になりました。その話題の主は、中卒、フリーター出身の西村賢太さん＝写真。「友だちは一人もいない」と公言し、自らの体験を赤裸々に描く作風は、久しぶりに破滅型私小説家が登場したと、一躍文壇の寵児(ちょうじ)に躍り出ました。無類の酒仙でもある西村さんと、本紙記者が居酒屋で徹底して飲み明かしながらインタビューを敢行。西村さんの口からこぼれた言葉は、意外や意外、辛口の若者論でした。

「知りたいが分かる」がモットーの「ザ・特集」に、ご期待下さい。



紙面事情などにより掲載日が変更になることがあります。